

第 32 期

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

事 業 報 告 書

公益財団法人 双日国際交流財団

## 第 32 期（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日） 事業報告書

平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）は、当財団設立 30 周年記念に伴う助成事業拡充を図り、基調事業としての学術研究助成、奨学金助成、-国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第 30 周年記念号」の発行と関係先への配布及び財団ホームページの管理・運営を継続、実行した。

財団の財政収支面では、財団設立 30 周年記念として双日㈱から公益目的事業費及び管理費向に前年度までの 500 万円から 1000 万円増額の 1,500 万円の寄附を頂いた。

基本財産の運用においては、依然として金利水準が低迷する中、昨年同様 3,920 万円の運用収益を確保できた。

基本財産を形成している債券の価額は、評価益が 768 万円増加となり、今期末の基本財産額は前期末比 858 万円増加の合計 22 億 4,474 万円となった。

### 〔I〕 今期の事業の概要

#### a. 助成事業

今年度の助成事業は、平成 30 年度事業計画に定められていた 44 案件のうち 1 案件が中止となり、最終 43 案件 計 3,997 万円の助成を実施した。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

#### イ) 学術研究助成

- ・USJI(日米研究インスティテュート)若手研究者育成事業への助成 (80 万円)  
2009 年ワシントン DC に設立された非営利団体。将来の日米関係の発展に寄与できる次世代若手研究者の育成を目的に、日本 8 大学の研究者を支援。選出された若手研究者 6 名のうち 4 名に対し(2 名は米国政府機関閉鎖の影響により断念)スカラーを与え支援。

#### ロ) 奨学金助成

1. 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成 (2,292 万円)  
今年度 5 月～6 月の補充選考を経て、前年度までの 16 指定大学から平成 30 年度は新たに 4 校を増やし 20 大学の奨学生、以下の 20 名に対し奨学金を支給した。

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| ① チェ ホビヨン       | (北海道大学大学院 工学院)      |
| ② グエン ティ タン フーン | (東北大学大学院 工学研究科)     |
| ③ クブラ カディザトゥル   | (筑波大学大学院 生命環境科学研究科) |
| ④ マディナ ヤクフジャン   | (千葉大学大学院 医学薬学府)     |
| ⑤ グレッグ カイ エルヴィン | (東京大学大学院 公共政策学)     |

- |   |              |                           |
|---|--------------|---------------------------|
| ⑥ | ハサニ ファテメ     | (東京工業大学大学院 環境・社会理工学院)     |
| ⑦ | ロ キンヨウ       | (一橋大学大学院 商学研究科)           |
| ⑧ | エリナ ザイフェルト   | (早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科)      |
| ⑨ | リュウ シ リン     | (慶応大学大学院 文学研究科)           |
| ⑩ | ルー ティエン      | (上智大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科) |
| ⑪ | グエン クオック コア  | (横浜国立大学 教育人間科学部)          |
| ⑫ | リュウ ガン ツ ウェン | (名古屋大学大学院 人文学研究科)         |
| ⑬ | チョウ ヘキ ショウ   | (京都大学大学院 工学研究科)           |
| ⑭ | ヴォ ウィ チャウ    | (大阪大学大学院 経済学研究科)          |
| ⑮ | ソン ホンウ       | (神戸大学 経済学部)               |
| ⑯ | ハウ セイリョウ     | (岡山大学大学院 社会文化科学研究科)       |
| ⑰ | カオ ティ トウイ リン | (広島大学大学院 生物圏科学研究科)        |
| ⑱ | カンデル ナラヤン    | (九州大学大学院 経済学府)            |
| ⑲ | ジョス マヌ       | (立命館アジア大洋州大学大学院 経営管理研究科)  |
| ⑳ | リュウ コウデン     | (熊本大学 理学部)                |

2. 国際大学奨学金制度への助成 (120万円)  
 国際大学が、同大学に在籍する外国人私費留学生に支給する同大学の奨学金制度の中の Sojitz Foundation Scholarship に対して助成を行った。

#### ハ) 国際交流助成

(国際会議等)

1. 「第70回 日米学生会議」への助成 (40万円)  
 「異なる価値観との邂逅～対話をもたらす成長への探求～」をテーマに3週間に亘る共同生活を通じ米国4地域を巡り乍ら、7つの分科会で率直な対話を重ね相互理解を深めた。  
 開催時期：2018年8月6日～28日  
 開催地：米国(マディソン・レキシントン・ワシントンD.C.・ポートランド)  
 参加人員：日本36名、米国30名 計66名
  
2. 「第37回 日中学生会議」への助成 (40万円)  
 「発見の道も一歩から～既知を論じ、無知を知り、未知を開拓する～」の理念を掲げ、歴史、教育、経済、安全保障、メディア、ジェンダーの分科会に分かれ、事前活動もを行い、議論を行い、日中間の現在の関係に相互理解を深めた。  
 開催時期：2018年8月5日～26日(本会議)  
 開催地：中国(北京・西安・南京・上海)  
 参加人員：日本31名、中国31名 計62名

3. 「2018年度 日中青年会議」への助成 (35万円)  
「少数の思慮深く献身的な人たちが世の中を変えていけるということを疑ってはならない。実際に世の中を変えてきたのはそのような人々だけなのだから。」という米国人類学者マーガレット・ミードの格言をスローガンに日中間の共通点や相違点を議論して、相互理解・尊重を深めることができた。  
開催時期： 2018年7月20日～26日  
開催地： 中国(香港)  
参加人員： 日本20名、中国31名 計51名 (別途主催者組織委員32名)
4. 「第33回 日韓学生会議東京大会」への助成 (30万円)  
今回のテーマとして、①IoT技術の活用現状と方向性について②日韓の言語文化比較③日韓の少子化問題の解決策の模索④朝鮮通信使を通じてみた日韓交流の様相の分科会で討論を行い、文化交流企画、フィールドトリップ等を通じて交流し相互理解を図った。  
開催時期： 2018年8月5日～19日  
開催地： 日本(東京)  
参加人員： 日本側10名、韓国側10名、通訳3名 計23名
5. 「第34回 日韓学生フォーラム」への助成 (40万円)  
「Collect A Piece to Peace」をスローガンに、韓国で開催。2月・6月の日本メンバーによる事前合宿を経て、8月の韓国でのシンポジウムでは、高齢化社会、教育と就職、日韓の対北朝鮮政策の歴史と予想、日韓におけるエネルギーのこれから、LGBTの人々と共存するために、のテーマで開催し、同時に政治/経済/歴史/社会/文化の分科会にてそれぞれテーマを設定してディスカッションを行った。  
開催時期： 2018年8月9日～23日  
開催地： 韓国(釜山・慶州・パジュ・ソウル・全州)  
参加人員： 日本15名、韓国16名 計31名
6. 「第13回 日本台湾学生会議」への助成 (40万円)  
今年の分科会テーマは「職業」「テクノロジー」「メディア」「健康」「文化」「経済」とし、SNSにおけるメディアテラシー、地方創生を通じた経済発展、健康意識の形成要因の違い、等それぞれのテーマについて討議を行い、お互いの理解を深めた。  
文化交流として、京都、大阪への観光も行った。  
開催時期： 2018年8月23日～31日  
開催地： 日本(大阪)  
参加人員： 日本34名、台湾41名 計75名
7. 「第22期 日本インド学生会議」への助成 (40万円)  
「SDGsを通じて共生への日印相互理解を深めよう」を本年度テーマとし、貧困・教育・ジェンダー平等・住み続けられるまちづくり・気候変動対策の5つのターゲットに絞る

議論をして考察を深めた。企業訪問・NGO 訪問・観光・文化交流も行った。

開催時期： 2018 年 8 月 6 日～28 日

開催地： インド（コルカタ・シャンティニケトン・デリー）

参加人員： 日本 12 名、インド 21 名 計 33 名

8. 「第 22 回 日本トルコ学生会議」への助成 (40 万円)

言語グループでは、両国言語の方言について、医療・交通・JICA グループでは 18-19 世紀の医療、両国交通網及び JICA の機能につき分科会討論を行った。3 都市での観光・文化交流も行った。

開催時期： 2018 年 8 月 15 日～24 日

開催地： トルコ（イスタンブール、チャナッカレ、アンカラ）

参加人員： 日本 9 名、トルコ 12 名 計 21 名

9. 「2018 年度 日本中東学生会議招聘事業」への助成 (30 万円)

「初等教育」をテーマとして、言語教育・教育格差・道徳教育の 3 分科会で討議、プレゼンテーションを行った。ヨルダン、エジプト、UAE、トルコ、イラン、オマーンの参加者からは自国の教育事情に関する説明があり、各分科会で議論が行われた。又、都内及び富士山、箱根観光も実施した。

開催時期： 2018 年 8 月 20 日～30 日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本 10 名、中東側 8 名 計 18 名

10. 「第 16 回 日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議」への助成 (40 万円)

個性、積極的な参加と貢献、相互の尊重をキーワードとして、4 つのトピック、「日常生活」「首都問題」「教育とメディア」「安全保障」についてプレゼンテーション、質疑応答、議論を通してお互いの理解を深めた。

開催時期： 2018 年 8 月 4 日～20 日

開催地： 日本（広島、東京）

参加人員： 日本 17 名、イスラエル 7 名、パレスチナ 4 名 計 28 名

11. 「第 30 回 日ロ学生会議によるロシアの学生団体との交流」への助成 (40 万円)

ハバロフスク本会議では日ロ間の防災意識と協力可能性、伝統と近代の文化融合、モスクワ本会議では日ロ両国による安全保障の行方、環境、アイデンティティ（歴史認識）の分科会を開催し、討議をして理解を深めた。

開催時期： 2018 年 8 月 10 日～28 日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本 11 名、ロシア 24 名 計 35 名

12. 「2018 年度 日仏学生フォーラム渡仏プログラム」への助成 (30 万円)

「経済・社会政策」「マーケティング」「都市計画」「教育」の 4 テーマに対し、分科会で

日仏両国での共通点、違いなど、テーマに則した討議をして理解を深めた。同時に、パリでの企業・官庁訪問、ストラスブールへの研修旅行を通じて、フランスの社会・文化についても学ぶことができた。

開催時期： 2018年8月17日～31日

開催地： フランス（パリ、ストラスブール）

参加人員： 日本13名、フランス12名 計25名

13. 「第3回 日英学生会議」への助成 (40万円)

イギリスと日本の「人の移動と労働」に焦点を当てて昨今の国際的な「人の移動」と「労働市場」について歴史的・文化的背景を考えつつ原因を分析し、日英両国にとってどのような取り組みが必要かを多角的に議論した。観光・文化交流も行った。

開催時期： 2018年9月8日～16日

開催地： 英国（ロンドン）

参加人員： 日本11名、英国9名 計20名

14. 「第17回 日本ルワンダ学生会議」への助成 (35万円)

両国の学生がそれぞれ興味・関心がある分野や社会問題などからトピックを決め、プレゼンテーションを行い、そのトピックに関連したディスカッションや意見交換を行った。今回は民族紛争に苦しめられたルワンダ人から見た日朝・日韓関係、大日本帝国と靖国神社をテーマとした。相互の風習と生活を知る文化交流も実施した。

開催時期： 2018年8月15日～22日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本5名、ルワンダ19名 計24名

15. 「G7 Youth Summit 及び G20 Youth Summit 2018 日本代表団派遣」への助成 (30万円)

毎年 G7・G20 サミット開催に合わせて開かれるこの Youth Summit は、今年度は、カナダ (G7)・アルゼンチン (G20) での開催となった。事前活動において種々意見交換を行い、「ジェンダー」、「未来の仕事」、「環境」及び「起業家精神」「SDGs」に付き分科会にて討議を行い、G7・G20 のリーダーへの提言を行った。

開催時期： 2018年4月15日～18日 (Y7 カナダ)

2018年8月12日～18日 (Y20 アルゼンチン)

開催地： カナダ (オタワ Y7)・アルゼンチン (コルドバ Y20)

参加人員： 日本6名 (Y7-4名/Y20-2名)、G7 諸国32名・G20 諸国35名 合計67名

16. 「模擬国連会議全米大会第36代日本代表団派遣事業」への助成 (25万円)

今年度の提携校テキサスクリスチャン大学の学生と文化交流をし、書道や折り紙など日本文化を紹介した。その後ニューヨークの模擬国連会議全米大会に同大学と合同でオランダ大使代表団として参加し、国連が取り扱う国際問題について様々な国の学生と議論をした。

開催時期： 2019年3月13日～30日

開催地： アメリカ（テキサス州、ニューヨーク州）

参加人員： 日本 10 名、アメリカ・ドイツ・フランス・中国・南アフリカ・ベネズエラ  
コロンビアなど 300 以上の大学から約 5,000 名

17. 「北東アジア学生ラウンドテーブル 2018」への助成 (30 万円)

「学生視点で考える北東アジアの持続性」というテーマで 5 ヶ国の学生が、サイバーセキュリティ、エネルギー、貿易、労働環境の分科会で議論をしてお互いに理解を深めた。

開催時期： 2018 年 8 月 5 日～8 月 13 日

開催地： 韓国（ソウル）

参加人員： 日本 19 名、モンゴル 15 名、韓国 22 名、台湾 17 名、ロシア 3 名  
合計 76 名

18. 「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 2019 本会議東京大会」への助成

(30 万円)

日本を含む世界 10 ヶ国からの学生・教授が東京に集り、「マイノリティ」をテーマに、  
いろんな観点から議論を行い、報告会も開催した。文化交流、東京観光も行なった。

開催時期： 2019 年 2 月 18 日～2 月 27 日

開催地： 日本（東京）国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人員： 日本 25 名、ブルガリア、キルギス、メキシコ、チュニジア、スロバキア、  
シンガポール、ペルー、米国より 9 カ国 23 名 計 48 名

19. 「STeLA Leadership Forum 2018」への助成 (35 万円)

次世代の国際的リーダーを目指す日本・ヨーロッパ・中国の工学、生物学、医学、経済学など幅広い分野から参加者を集め、「Smart Cities and Internet of Things」をテーマに、リーダーシップを学び、ディスカッション、ワークショップを提供した。

開催時期： 2018 年 8 月 7 日～16 日

開催地： 日本（東京大学 本郷キャンパス）

参加人員： 日本 8 名、中国 7 名、ヨーロッパ 10 名・中東 7 名、 計 32 名

20. 「第 64 回 国際学生会議」への助成 (40 万円)

「真の世界平和を実現すべく、未来を担うグローバルリーダーとして現在の不安定な世界をいかに変革するか」をテーマに、分科会でのディスカッション、研修旅行、日本文化体験などを通して交流した。

開催時期： 2018 年 8 月 22 日～9 月 3 日

開催地： 日本（名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・九州・東京）

参加人員： 23 カ国から 64 名が参加（うち日本 33 名）

(国際交流)

21. 「国際環境フォーラム」への助成 (30 万円)

近年の経済発展の著しいアジア各国で様々な環境問題と、それによって引き起こされ

る健康問題に関する新たな知見の共有と、「環境問題を解決するための方策」につき本シンポジウムを通じて「開発途上国と先進国の双方アプローチ」が実現され、新たな交流関係、新たな共同研究も生まれた。

開催時期：2019年2月1日～3日

開催地：日本（名古屋大学東山キャンパス）

参加人員：日本70名、外国80名 計150名

22. 「ジュニア・フェロー・リーダーシップ・プログラム」（ジャパンソサエティ）への助成  
（30万円）

選抜されたアメリカの高校生が東日本大震災で被害にあった地域を訪れ学び、東京では企業訪問、また福島ではホームステイを体験した。

開催時期：2018年7月9日～29日

開催地：日本（福島・東京）

参加人員：米国人ジュニア・フェロー10名、日米ジュニアフェロー同窓生15名

23. 「CEPEX Japan Studies Award」への助成  
（36万円）

米国のNPO法人CEPEXが、行うアメリカ人日本専門家育成プログラム「Japan Studies Award」。このコンテストの優勝者には、ワシントンDCの日本企業での11日間のインターンシップの経験及び11日間の日本訪問の機会が与えられ、ブルッキングス研究所等で「日米同盟と抑止問題」等の考察が行われた。

開催時期：2018年5月21日～6月5日

開催地：米国（ワシントン）、日本（東京）

24. 「“MrJ”プロジェクト第16回日本語夏期講習サマースクール」への助成  
（40万円）

ウランバートルにある「新モンゴル小中高一貫学校」を舞台にして、日本の大学生が教師役となり、モンゴル高校卒業予定者を対象に、日本の詩や歌を含む日本語の授業、日本の社会生活の学習を行うサマースクールが開催された。スピーチコンテスト・詩の朗読大会も実施した。

開催時期：2017年7月30日～8月24日

参加人員：日本10名、モンゴルの生徒：200名

25. 「日本・インドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業」への助成  
（中止）

2018年度助成案件として予算化されていたが、インドネシアの派遣予定地であったバリ島のアグン山の火山活動が続いており、昨年度からの自然災害も続いていたことあり、現地でのリスク管理が出来ないとして日本人研修生の派遣を断念する旨、2019年1月に助成辞退の通知を受けた。（30万円→中止）

26. 「International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders 2019」への助成  
（40万円）

「Seeking New Values」をテーマとして、「教育」「環境」「社会包摂」の3つのコンテ



ンツからフィールドワークを行い、東京3日間、ヤンゴン7日間の両国で開催した。  
東京、ヤンゴンでのシティーウォーキング等を通じ異文化交流を深めることもできた。

開催時期： 2019年2月10日～20日

開催地： 日本（東京）・ミャンマー（ヤンゴン）

参加者： 日本11名、ミャンマー15名 計26名

27. 「2<sup>nd</sup> AUF(Agricultural youth Forum)アジアと新潟をつなぐ農業共働プログラム」への助成 (30万円)

農業関係施設の訪問、日本農業を稲刈りなどの体験を通じて紹介し、ワークショップで  
お互いの農業の可能性や魅力を議論。郷土料理などを通して、異文化交流を深めた。

開催時期： 2018年9月17日～23日

開催地： 日本（新潟、東京）

参加者： 日本(新潟大学)41名、ロシア(沿海州農業アカデミー)4名 計45名

28. 「MPJ ユース 2018 年度アフリカ研修事業」への助成 (30万円)

JICA、日本大使館、マラウイ大学等を訪問し、「教育」「文化・社会」「経済・インフラ」  
をテーマとして、3分科会でマラウイの学生とのディスカッションを行い、また、ホーム  
ステイ、文化交流などを通じ、お互いに理解を深めた。

開催時期： 2018年8月12日～27日

開催地： マラウイ（アフリカ大陸南部）

参加者： 日本9名、マラウイ15名 計24名

29. 「Experience Japan 2018」への助成 (30万円)

「インターネットと社会」をテーマに参加6カ国でのネット関連技術の発達が社会に与え  
てきた影響につき、自国との比較により発見した問題に対する解決策を考察した。

開催時期： 2018年8月26日～9月3日

開催地： 日本（東京、会津）

参加人員： 日本18名、ミャンマー・インドネシア・マレーシア、ベトナム・カンボジ  
アより8名 計26名

30. 「Hallo Japan」（第12回日独ユースサミット）への助成 (30万円)

日独青少年交流を目的に、政治、文化、社会、教育、環境のグループに分かれ、テーマ  
に関係する専門家、施設を訪問しディスカッションを行い、最終プレゼンテーションと  
してグループごとに提言をまとめ発表した。同時に、合宿形式の交流の中で、お互いに理  
解を深めた。

開催時期： 2018年8月24日～9月2日

開催地： 日本（東京・横浜）

参加者： 日本26名、ドイツ23名 計49名

31. 「スポーツを通じてドイツと国際交流を図る」への助成 ( 30 万円 )  
奈良・京都の小学生 10 名がベルリンでサッカーの合同練習・親善試合をし、スポーツ交流をする。ホームステイや親睦会を通じて互いの理解をより深めた。  
開催時期： 2018 年 7 月 27 日～8 月 2 日  
開催地： ドイツ (ベルリン)  
参加者： 日本 10 名、ドイツ 23 名 計 33 名
32. 「日タイ介護・リハビリテーション学び合いプロジェクト」への助成 ( 78 万円 )  
タイのポータルーム郡の看護師・ボランティア計 6 名を招聘し、日本の介護や福祉の現場見学、体験を通じ、日本人との交流や高齢者ケアに関する意見交換が行われた。  
成果としてタイでのデイケアセンター 2 店舗目を設立することができた。  
開催時期： 2018 年 11 月 10 日～14 日  
開催地： 日本 (大阪・神戸・京都宇治)  
参加者： 日本 8 名、タイ 6 名 計 14 名
33. 三陸とアジア、現代と芸能を繋ぐプログラム「アジア神々の系譜」への助成 ( 30 万円 )  
三陸沿岸の被災のアーカイブスを活用すると共に、被災地における強いコミュニティの中心にある「民俗芸能」のエッセンスを取り入れた舞台作品を資源とし、三陸に人を呼び込むことで地域活性化を果たす。  
開催時期： 2018 年 8 月 10 日～2019 年 3 月 10 日  
開催地： 日本 (岩手県大船渡市・石巻市)  
参加者： 日本 28 名、インドネシア 5 名 計 33 名 観客動員数：約 400 名
34. 奨学生交流会 (兼奨学生 OB 会) ( 200 万円 )  
財団の奨学生同志及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。初日は、奨学生、財団役職員及び双日(株)の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2～3 日目は茨城・栃木方面への研修旅行というプログラムで開催された。この交流会を通じ、奨学生同志の親睦が一層深まった。  
開催時期： 2018 年 9 月 20 日～22 日  
参加者： 奨学生・奨学生 OB 27 名、 役員他関係者 31 名 計 58 名
- (日本文化紹介等)
35. 「第 43 回 ジャパンウィーク 2018 年イタリア・トリノ」への助成 ( 30 万円 )  
日本各地から参加する多様な団体による、日本の伝統芸能、伝統工芸、音楽等幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本に対する理解を深めると同時に、地元市民との交流を図る企画。今年度はイタリア・トリノで開催された。  
開催時期： 2018 年 10 月 19 日～25 日  
開催地： イタリア (トリノ)  
参加者： 日本側 54 団体 1,007 名、トリノ側 1 団体 40 名、来場者 21,000 人

36. 「マジック公演（トンガ王国）」への助成 (18万円)  
100カ国以上を訪ねてマジック公演を行ってきた 渡邊氏が、トンガの幼稚園、小学校、病院を訪問、又、現地農業祭式典広場では国王、王妃両殿下並びに政府関係者の前でマジックを演じて国際交流を行った。  
開催時期： 2018年7月24日～29日  
開催地： トンガ王国（トンガタブ）  
参加者： 日本側 渡邊氏のみ  
現地来場者 国王、政府・大使館関係者等 1,200人以上
37. 「日本スペイン外交関係樹立150周年記念事業・能公演」への助成 (20万円)  
スペインとの外交樹立記念事業として能楽を中心にスペイン文化と交流を計るため、日本の古典芸能としての能楽を公演。在バルセロナ総領事館協力の講座並びにDVDによる古典と現代的な作品の紹介も行った。  
開催時期： 2018年4月19日～23日  
開催地： スペイン（バルセロナ）  
参加者： 日本側2名、バルセロナ側来場者 2公演170名
38. 「ルーマニア建国100周年・シビウ国際演劇祭25周年記念 能楽特別講演（山本能楽堂）」への助成 (20万円)  
ヨーロッパ三大演劇祭であるシビウ国際演劇祭では8百年の歴史あるチスナディアラ砦教会とハーベルマン野外劇場、首都ブカレストの国立劇場で、能の公演を開催した。シビウ演劇学校で能の謡の発声、楽器の説明と体験等ワークショップを行い、ルーマニアに集まる世界の人々に向けて、能の魅力を広め、日本文化理解の増進に寄与、貢献した。  
開催時期： 2018年6月11日～21日  
開催地： ルーマニア（シビウ・ブカレスト）  
参加者： 日本側団員17名、  
ルーマニア側来場者 3公演5,980名・ワークショップ140名

(日本語普及事業等)

39. 「スリランカの日本語学生を対象との相互交流」への助成 (30万円)  
スリランカ派遣では、日本語教師のコロンボ外国語学校訪問と、現地学生と共に「日本の夏祭り」の屋台体験、ソーラン踊り等の披露を通じて生きた日本語、日本文化の紹介、学生たちとの交流を行なった。  
開催時期： 2018年7月21日～8月3日  
開催地： スリランカ  
参加人員： 日本からの派遣4名、現地日本語学校学生、一般来場者150名  
日本開催では和食、着物の着付け、書道、茶道等で日本文化の紹介を行い、日本の学校、保育園、障害者施設などを見学、また日本語を指導しているスリランカと日本の教師・学生との意見交換会を実施するなど、より深い相互理解と日本語指導の方向を探った。  
開催時期： 2018年9月25日～10月8日

開催地： 日本（豊中）

参加人員： スリランカ 6 名、日本語教師、ボランティア他 60 名

40. 「第 23 回海外高校生による日本語スピーチコンテスト」への助成 ( 30 万円 )

各国の予選を通過した代表を日本に招聘し、スピーチコンテストが行われた。

異文化交流プログラムも行われ、お互いの文化を理解し、ホームステイも行われ、国境を超えた友情を深めた。

開催時期：2018 年 7 月 25 日～8 月 6 日

開催地： 日本（愛媛・東京）

参加者： 16 カ国(中国、韓国、アメリカ、イギリス、ロシア等) 計 17 名

大会観客 800 名、各国(予選)大会総出場者 約 3 万名

41. 「第 3 回ハノイ日本語教育講演会・交流会」への助成 ( 13 万円 )

ベトナムの日本語教師を対象に、ベトナム国内外の日本語教育専門家を招き講演会を

実施。成果を日本語学習者に還元するためプレゼンテーション大会も行い、ベトナムの日本語教育全体の発展につなげる。

開催時期： 2018 年 10 月 20 日

開催地： ベトナム（タンロン大学）

参加人員： 講演会参加者 101 名

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の 2 事業を行った。 合計 318 万円。

1. 財団ホームページの更新・運営 ( 44 万円 )

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第 15 号 30 周年記念誌」の発行 ( 274 万円 )

平成 30 年 9 月「財団だより - 第 15 号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財団関係者、母体会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、平成 29 年度の事業報告及び財団の活動の PR を行った。

## [II] 管理・庶務事項

- 平成 30 年 4 月 1 日 平成 30 年度奨学生募集を開始
- 5 月 14、15 日 会計監査人による決算監査
- 5 月 23 日 第 94 回選考委員会を紙上開催  
・平成 30 年度奨学生 13 名を補充選考
- 6 月 7 日 第 93 理事会を開催  
・平成 29 年度事業報告書及び決算報告書を承認  
・6 月 27 日の定時評議員会開催を決議  
・平成 30 年度奨学生 13 名を承認
- 6 月 27 日 第 70 回定時評議員会を開催  
・平成 29 年度の事業報告並びに決算報告を了承
- 6 月 28 日 平成 29 年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出
- 9 月 18 日 機関誌「財団だより 第 15 号 (30 周年記念誌)」を発行
- 9 月 20 日～22 日 「財団奨学生交流会」を開催
- 10 月 25 日 第 94 回臨時理事会を書面開催  
・事務局長交代並びに選考委員の 1 名選任を承認
- 11 月 1 日 2019 年度国際交流助成募集開始
- 12 月 22 日 2019 年度国際交流助成募集〆切
- 平成 31 年 2 月 21 日 第 95 回選考委員会を開催  
・2019 年度助成案件を選考
- 3 月 20 日 第 95 回理事会を開催  
・2019 年度助成案件(案)及び 2019 年度事業計画(案)を承認  
・2019 年度収支予算(案)を承認  
・資金運用規定に基づく債券(株式)購入の承認  
・国際大学を当財団奨学金助成の指定大学に加える件  
・謝金規程を制定  
・理事長・専務理事の職務執行状況の報告
- 3 月 28 日 2019 年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以 上